

Ⅱ 「自らの人生をたくましく切り拓き、社会に生かすことのできる人間」を育てるために

区分	施策名
確かな学力の育成	
1	「学習サポーター」派遣事業
2	「学習エキスパート」派遣事業
3	社会人特別非常勤講師配置事業
4	授業の心と技向上推進事業
個性を生かし個性を伸ばす教育	
5	「学びネットあいち」学習コンテンツの充実
6	地域の教育力向上のための活動促進事業
7	普通科コース制の設置等
8	「愛知スーパーハイスクール」の指定等
9	あいち理数教育推進事業
10	ステップアップハイスクールの設置検討
キャリア教育	
11	「あいち・出会いと体験の道場」推進事業
12	県立高校におけるインターンシップの推進
13	特別支援学校における職業的自立支援システム化推進事業
14	人材育成コーディネート推進事業
15	リカレント教育推進会議
特別支援教育	
16	特別支援教育体制推進事業
17	あいち発達障害者支援センターの充実
18	発達障害児童生徒対応通級指導教員の配置
19	特別支援教育コーディネーター、特別支援教育指導員の配置
20	県立特別支援学校いきいきプラン事業
21	新設養護学校、高等部分校の整備
外国人児童生徒等への教育	
22	外国人学校の各種学校設置認可審査基準の緩和
23	多文化共生社会づくり推進事業
24	日本語教育適応学級担当教員の配置
25	ポルトガル語等語学相談員の配置
26	外国人生徒サポート事業

確かな学力の育成

子どもたちに、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に行動し、問題を解決する力を身に付けさせるため、子どもたちが興味・関心をもつ分かりやすい授業と、それを支える教員の授業力を向上させる事業を実施し、市町村を支援していくことが重要です。

教員志望の大学生が教員の補助を行う、「学習サポーター派遣事業」などの学習支援を実施し、基礎学力の定着を図るとともに、退職教員や地域の人材を活用して、子どもたちが興味・関心をもつ分かりやすい授業を展開しました。このほか指導実績のある教員経験者や大学教授などのもつ指導力を生かし、教員の授業力向上を図りました。

1 「学習サポーター」派遣事業

(1) 平成 22 年度の取組

子どもたちに基礎的な学力や生活力を身に付けさせるため、教員志望の学生や退職教員を「学習サポーター」として活用し、きめ細かな指導や障害のある子どもへの支援を進め、学習上のつまずきの解消や学習意欲の向上を図った。併せて、学生の将来の教員としての資質向上にもつなげた。

- ・ 小学校：一宮市立朝日東小学校始め 10 校
- ・ 中学校：一宮市立木曾川中学校始め 10 校
- ・ 発達障害児支援（小中学校）：一宮市立開明小学校始め 20 校
- ・ 学習サポーター派遣事業推進会議の開催
事業の成果と課題について協議

(2) 取組の成果

学校からは、「学習支援により、学習課題への理解が深まり、より集中して授業に臨めるようになった。」「サポーターが、常に対象生徒を観察していることにより、その生徒の行動に早急に対応できるようになっただけでなく、担任が学級全体を把握しやすくなった。」などの成果が報告され、学習サポーターが児童生徒に寄り添って支援することで、児童生徒に安心感が生まれ、学習意欲を高めることができた。

また、「体験を通じて、教員になりたいという気持ちが増し、より一層勉学に励むだけでなく、他のボランティアにも積極的に参加するようになった。」という学生の言葉に代表されるように、教員志望の学習サポーターにとっては、教員の仕事を間近で見ることができ、児童生徒への対応の仕方や根気よく指導することの大切さを学び、教員としての適性を確かめるとともに、教員となるための資質向上につなげることができた。

(3) 今後の課題・方向性

学校現場からの派遣を求める声が大きいが、派遣にかかる経費が障害となって、事業の拡充が進まないことから、今後、大学側と協議しながら、拡充方法を検討していく。

2 「学習エキスパート」派遣事業

(1) 平成 22 年度の取組

各分野の第一線で活躍する人材を「学習エキスパート」として小・中学校に派遣し、学級担任や教科担任等と協働して授業を行うことにより、児童生徒が通常の授業では触れることができない内容を知ったり、体験したりすることを通して、学ぶことの意義や楽しさを感じさせた。

- ・「学習エキスパート」を 60 校に派遣
手話、似顔絵、俳句、百人一首、落語、天気予報 などの学習エキスパート

(2) 取組の成果

子どもたちが様々な分野の学習エキスパートたちの技に触れることで、知的好奇心が刺激された。子どもたちからは「全ては夢から始まるということを教えてもらった。」という声があり、自らの強い思いをもって学習に取り組もうとする意欲がうかがえた。

また、学習エキスパートからは「子どもたちの真剣な態度に勇気づけられた。」などの感想があった。



落語の授業風景
（「学習エキスパート」
派遣事業）

(3) 今後の課題・方向性

子どもたちの学習意欲を一層高めるために、教師と学習エキスパートの事前打ち合わせを充実させるとともに、授業で高まった子どもたちの意欲を次につなげていくことが重要である。そのため、各小中学校が学習エキスパートと教師による授業を教育課程に明確に位置付けることを推進していく。

また、各学校での学習エキスパートをはじめとする外部人材の活用を促進するため、学校と学習エキスパート等が簡単に連絡調整できる人材バンク的機能を Web 上に設置する。

3 社会人特別非常勤講師配置事業

(1) 平成 22 年度の取組

小中学校の教育において、体験的な学習の充実を図り、児童生徒の「生きる力」を育むために、教員免許は持たないが、各種分野において幅広い経験や優れた知識・技術をもつ地域の専門家や社会人を、特別非常勤講師として活用した。

- ・教科等を担当する教員の指導計画に基づき、児童生徒の主体的・意欲的な学習を展開

小学校：160 校 延べ 232 人

総合的な学習の時間 米作り・野菜作り・環境学習・防災学習など
クラブ活動 郷土芸能・茶道・手話など

教科等 水泳・書写・珠算など

中学校：68 校 延べ 74 人

総合的な学習の時間 異文化理解・情報の処理など

教科等 箏・三味線・剣道・柔道など

(2) 取組の成果

優れた技術指導による質の高い専門的な技術の獲得や、伝統や文化に関する教育の充実など、学習の内容が多様になった。「地域との絆や郷土に対する愛着を深め、継承していこうとする気持ちが高まった」、「専門家と地域の特産物である野菜を栽培することで、命の大切さを学ぶとともに、作物を育てる喜びや自然の恵みへの感謝の気持ちを育てることができた。」など、学習意欲の向上が図られた。

(3) 今後の課題・方向性

各学校が特色ある活動を進めていくため、実施教科や内容などについて学校のニーズに対応した人材の発掘が求められる。

また、限られた授業時間の中で、地域の人材をいかに効果的に活用し、授業を充実させることができるのか検討していく必要がある。

4 授業の心と技向上推進事業

(1) 平成 22 年度の取組

子どもたちの学習意欲を喚起させる「引きつける授業」「分かる授業」を展開するため、地域において指導実績のある教員経験者や大学教授等を指導者として学校で継続的に活用し、模範授業や指導技術を高めるための研修を通して、教員の授業力の向上を図るとともに、子どもたちの学習意欲を高めた。

- ・ 小学校：稲沢市立六輪小学校始め 10 校
- ・ 中学校：江南市立古知野中学校始め 8 校
- ・ 指導者：蜂須賀渉愛知教育大学准教授（算数科研究授業等）
始め 83 人

(2) 取組の成果

学校から、「経験豊かな指導者と共に授業を創る経験は、自信にもなり、確かな授業力の向上につながった。」、「教材提示の方法や発問の仕方、授業における教師の出、ティーム・ティーチングにおける授業への関わり方等について具体的な助言をいただいた。今までの授業を見直し、これらを積極的に取り入れながら、真摯に取り組む教師の姿が見られた。」といった感想が報告されており、指導者を継続的に活用することで、教員の授業力の向上を図ることができた。また、子どもたちの学習意欲を高めることもできた。

(3) 今後の課題・方向性

他校へ取組を広める工夫をしていく必要があり、現在県が行っている学校の取組の様子を Web ページで公開することなどをさらに充実させていく必要がある。

また、経験の少ない教員に指導方法や指導技術、教材解釈や教材開発、授業分析や評価等の力量を高めていくには、指導実績のある教員経験者による指導が効果的であり、今後もこのような取組が継続的に行われる必要がある。

個性を生かし個性を伸ばす教育

生涯学習情報システム「学びネットあいち」において様々な分野にわたる豊富な学習コンテンツを提供するとともに、地域においてはシニア世代のグループによる社会活動参加を促進しました。

また、高等学校においては、生徒の興味・関心に応じた多様な学科、コース等の設置や「愛知スーパーハイスクール[※]」の指定などを行いました。

※スーパーハイスクール：

県立高校において、高度な知識・技能等の習得を目指す新たな教育課程の開発や文化部及び運動部活動の実力・競技力向上を図る学校活性化の取組など、特色ある学校づくりに重点を置いた実践的研究を行うことを目的として平成20年度から3年間実施。

5 「学びネットあいち」学習コンテンツ^{*}の充実

(1) 平成22年度の取組

県民の学習意欲の多様化・高度化に対応するため、県、市町村、大学等の生涯学習関係機関・団体が保有している学習案内情報や学習教材を、インターネットを通じて総合的に県民に提供し、公開講座・講演録を始めとする学習コンテンツの充実を図るとともに、公共団体や生涯学習関係団体、博物館、公民館など、生涯学習情報の提供機関の「学びネットあいち」への新規加入についても、様々な場面で広報するなどの取組を行った。

※コンテンツ：

Web サイトや CD-ROM、DVD などの媒体で閲覧できるテキストや静止画、動画、音楽、音声といった情報全般のこと

(2) 取組の成果

情報内容について、「幼児教育・家庭教育」、「次世代育成などの児童福祉」、「高齢者教育・高齢者福祉」など社会状況の変化に対応した情報の提供をさらに充実させるとともに、伝統文化（特に歌舞伎）

や人権教育教材など、社会のニーズに対応したコンテンツの充実にも努め、22年度は約541万件のアクセスがあった。

また、情報の提供機関についても21年度末の1,355機関から22年度末には1,403機関に増加した。

(3) 今後の課題・方向性

高度情報化社会の中で、学習コンテンツの充実などにより、アクセス件数やリピーター件数の増加を図ることで、持続的・継続的な生涯学習情報の発



「学びネットあいち」トップページ（一部）

信をする必要がある。今後も、学習情報登録方法の簡素化を図ったり、情報内容を見やすくするなど、利用する側に立った改善を進めていく必要がある。

6 地域の教育力向上のための活動促進事業

(1) 平成 22 年度の取組

生涯学習の拠点である公民館等において、いわゆる団塊世代をはじめとするシニア世代を地域の教育活動に参画させるモデル事業を行い、地域社会における人間関係を再生し世代間交流を促すことで、地域教育力の活性化や規範意識の醸成をめざした。

・モデル事業の委託先：

亀山校区シニアで地域教育向上委員会（田原市）、ふるさと探偵団実行委員会（稲沢市）、東郷町民開館実行委員会（東郷町）、孫・子に伝えたい故郷額田実行委員会（岡崎市）

・地域教育力活性化コーディネーター養成講座を開催

期日、場所：平成 22 年 11 月 16 日、ウィルあいち 参加者 81 人
内容：稲沢市・田原市の実践発表

(2) 取組の成果

委託先の公民館を拠点として活動するシニア世代のグループによる地域のボランティア活動、異世代交流等の地域づくりにつながる活動が展開された。

シニアと子どもたちが関わる世代間交流の活性化や、シニア自身の意欲が喚起されたことなどが報告された。

事業成果をもとに啓発リーフレットを 7,200 部作成し、県内各市町村社会教育関係者、公民館等へ配布し、事業成果の普及啓発に努めた。



竹とんぼ作り

(3) 今後の課題・方向性

各地域における世代間交流と地域による子育て支援を推進するためには、シニア世代が子どもと関わるモデル事業をさらに多くの市町村で実施するとともに、シニア世代が子どもだけでなく、親世代や青年世代等とも関わる地域活動を引き続き推進する必要がある。

7 普通科コース制*の設置等

(1) 平成 22 年度の取組

県立高校に、生徒の様々な興味・関心に応じた多様な学科、コース等の設置を進めた。

・普通科コースの設置：一宮北高校（福祉実践コース）、東浦高校（情報活用コース）

*普通科コース制：

普通科高校において、普通教科・科目を学びながら、情報、福祉、外国語などの専門科目を学ぶことができる。

(2) 取組の成果

普通科コースについては、目的意識をもった生徒が多く入学し、意欲的に取り組んでいる。新たに設置した外国語教育や異文化に関するコース及び理数系のコースを核として、新たな学校づくりに取り組む姿勢が見られるようになった。

また、平成 21 年度までに設置した総合学科については、その設置により、生徒の幅広い学習ニーズや多様な進路希望に対応できるようになった。

資格を取得したり、選択科目の履修を契機として興味・関心を抱いた進路を希望する者が増加しており、各学校においては、大学、短大、専門学校、就職等を含め、進路先が多様化している。

- ・取得できる資格：簿記検定、トレス検定、カーコーディネータ検定、英語検定、その他専門学科で取得できる資格

(3) 今後の課題・方向性

総合学科については、21 年度で設置目標を達成することができた。今後は、社会情勢を踏まえた選択科目を設定するなど、教育課程の一層の工夫をしていく必要がある。さらに、総合学科や普通科コース設置にかかるこれまでの成果と課題等を検証しながら、新たな総合学科の設置について検討する必要がある。

総合学科設置校		
学校名	所在地	設置年度
岩倉総合高等学校	岩倉市	平成11年度
蒲郡高等学校	蒲郡市	平成15年度
鶴城丘高等学校	西尾市	平成16年度
杏和高等学校	稲沢市	平成17年度
知多翔洋高等学校	知多市	平成17年度
南陽高等学校	名古屋市港区	平成19年度
豊田東高等学校	豊田市	平成19年度
岡崎東高等学校	岡崎市	平成20年度
瀬戸北総合高等学校	瀬戸市	平成21年度

8 「愛知スーパーハイスクール」の指定等

(1) 平成 22 年度の取組

より高度な知識・技能等を習得するとともに、魅力と特色ある県立高校づくりをより一層進めるために、「愛知スーパーハイスクール」を指定するとともに大学や企業と連携し、高度な知識・技術の取得をめざした。

スーパーハイスクールの指定

- ・教育課程研究：

旭丘高校「高校理科における実験・観察の新しいスタンダードモデルの開発」始め 5 校

- ・文化部活動：名古屋南高校「吹奏楽」始め 4 校

- ・運動部活動：愛知商業高校「ハンドボール」始め 6 校

地域ものづくりスキルアップ講座

技の探究講座Ⅱ：株式会社豊田自動織機始め 5 講座（参加者 41 人）

- ・ものづくりの技術・技能などの特定の分野に興味・関心と優れた資質をもつ生徒が、比較的難易度の高い資格の取得を目指す

クラフトマンⅡ：株式会社友建始め 57 講座（参加者 161 人）

- ・それぞれの地域の産業界のニーズを踏まえた、より実践的な

技術・技能を習得することを目標に比較的長期間の現場実習を行う

(2) 取組の成果

愛知スーパーハイスクールについては、教育課程研究校として5校を指定し、それぞれの学校が特色に応じたテーマを設定し、高度な内容の研究に取り組むことで、先導的な役割を果たした。

文化部活動や運動部活動では、それぞれの学校において特徴を生かして、全国レベルで活躍した。

なかでも、文化部活動は指定した4校すべてが全国大会に出場し、特に全日本マーチングコンテスト全国大会において銀賞・銅賞を受賞するなど一定の成果をあげた。

こうした成果を他の学校へ普及することを目的に全体発表会を開催した。

また、地域ものづくりスキルアップ講座では、「技の探究Ⅱ」と「クラフトマンⅡ」を実施した。

その結果、それぞれの企業の特徴を生かしたものづくりに関する知識や技術・技能の指導を受け、生徒のものづくりに対する意欲を喚起することができた。



シーケンス制御作業



校内ゼミ（科学実験）



成果発表会の様子（マーチングバンド）

(3) 今後の課題・方向性

愛知スーパーハイスクールについては、指定校での研究成果を他の高校に普及・還元していくことが重要である。今後この成果をさらに発展させるためにも各学校の意欲的な教育活動を支援する新たな取組が求められる。また、自然科学分野の研究にあたった3校の成果については、「あいち理数教育推進事業」においても継続・発展させていく。